

研修会平成 17 年度  
財団法人 兵庫県危険物安全協会会長研修会

昨年 11 月 17 日（木）・18 日（金）、財団法人 兵庫県危険物安全協会会長研修会を、美方郡新温泉町の「井づつや」において開催しました。

今回の研修会では、講師として総務省消防庁国民保護・防災部長 小林 恭一 様にお越しいただきました。

今年も多くの方々にご来賓としてお越しいただき、小林 恭一 様、兵庫県防災監 東田 雅俊 様、財団法人全国危険物安全協会常務理事 鎌倉 弘幸 様、兵庫県下消防長会会長 平井 健二 様にご祝辞を頂戴いたしました。

その後、小林 恭一 様より「続発する産業災害を考える」と題してご講演いただきました。

まず、産業施設の事故事例についての説明として、2003年に発生した栃木県のタイヤ工場及び北海道苫小牧の製油所の火災、三重県のRDFの事故ほか、立て続けに大きな事故が発生したことを受けた消防法並びに石油コンビナート等災害防止法の改正についての説明をいただきました。

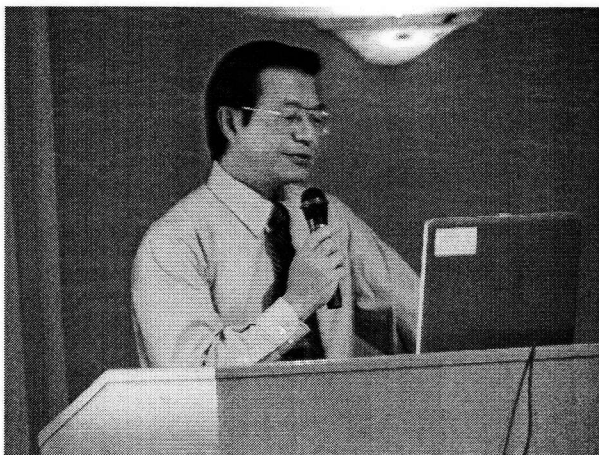
2004年は、危険物事故、石油コンビナート事故及び高圧ガスの事故件数が過去最高になっており、大規模産業災害は、事故の多発する中の延長上にあるものと考えられるべき、とのことでした。

続いて、かつて日本は産業の安全性世界一を誇っていたが、現在その「日本型安全システム」が崩壊している状況を説明いただき、その原因は長期的リスクを軽視するトップの増加、安全ノウハウの継承の断絶、人員削減、防災投資の削減などが考えられるのではないか、と分析されていました。

事故を無くすためには新たな安全システムの構築が必要であり、トップは、安全の確保を企業の存亡に係る問題として位置づけ、事故を起こそうとしても起こせないようなハード面の整備、ハード対策を徹底できないものについてはシステム設計の工夫とマニュアル化、契約とルールによる責任の明確化をしていかなければ、事故は今後も増大し、大規模災害に至る可能性も増大すると予想されていました。

また、全国と兵庫県の危険物施設及び事故の特徴を表やグラフを使い分かり易く説明していただきました。（P7：兵庫県の危険物の災害の特徴など）

約1時間30分にわたる講演会でしたが、危険物関係者、消防関係者にとって非常に有益な情報をいただいただけでなく、今後一層の自主保安体制の確立に向けて意義深い講演となりました。



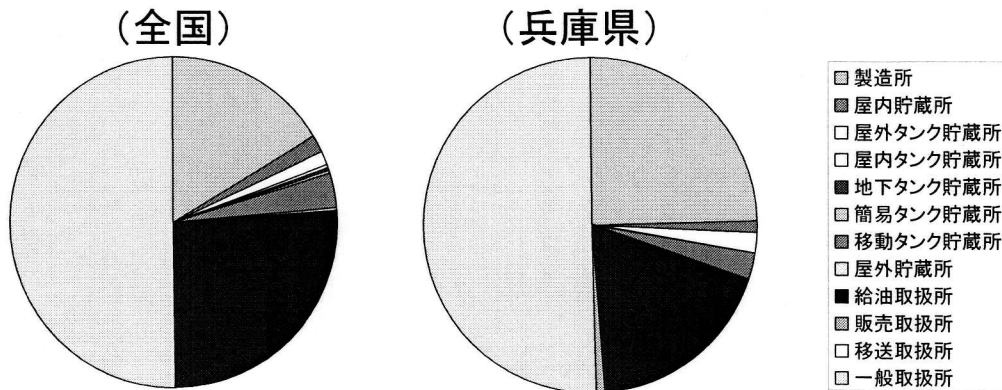
(小林部長講演)



(理事長あいさつ)

## 兵庫県の危険物施設の事故の特徴(火災1)

- 製造所の火災件数が多い。



危険物施設の区分ごとの火災件数(1990年～2004年の合計)

## 兵庫県の危険物施設の事故の特徴(火災2)

- 兵庫県の火災件数は、近年、増加  
全国で、ワースト2位(2004年)、5位(15年間合計)
- 兵庫県の火災発生率は、近年、全国の平均レベルを上回り急上昇  
全国で、ワースト4位(2004年)、4位(15年間合計)

